平成27年度第１回　大阪府市文化振興会議　議事概要

日　　時：平成27年6月23日（火曜日）15時～17時

場　　所：大阪市役所　屋上（P1）会議室

出席委員：池末委員、太下委員、佐藤委員、中川委員、西村委員、橋爪委員、松尾委員、山川委員、山口委員、

山下委員

司会

○　開会、資料確認、会議成立の確認（出席者10人／委員全員12人）

会長

○　会議の公開の宣言

議事１　アーツカウンシル部会の取組について

佐藤委員（アーツカウンシル部会長）

○　資料１の説明

・　２年前の７月に部会ができ丸々２年が経過

・　初年度（2013年度）から２年目（2014年度）までの活動状況の説明

・　１年目は審査・評価のみ、２年目は、審査･評価に加えて企画に踏み出した。

・　大阪は発信力が弱い、ジャンル間の交流が少ない、プロデューサー不足等の課題がある。

⇒解決に向けたU40の事業を提案。

・　２年目は若手プロデューサーのミーティングを３回開催

⇒他分野との交流が少ない、継続して実施してほしいという声があった。

・　３年目（2015）は、審査、評価、企画に加え、調査も実施

⇒芸術文化育成プロジェクトの説明後に、資料３で説明予定

○　資料２「平成27年度芸術文化育成プロジェクト　実施プログラムについて」を事務局から説明

・　アーツカウンシルの提言を具体化した事業

・　７者応募があり４事業者とともに事業を検討中

・　当初文化庁の補助金も合わせて6000万円の事業であったが残念ながら不採択となり、府市が1500万円づつ出し合い計3000万円の事業規模となった。しかしながら、アーツから提案のあった要素は全て入っている。

・　各コンテンツの説明

・　事業の経過、事業者の選定結果、プログラム名や組立状況、事業効果を波及させるためにアーカイブをしっかり行っていきたい。

・　同時期に実施される他の事業とも連携して実施。資料に記載はないが、大阪マラソンとの連携も。

（出席委員からの主な意見）　⇒は事務局の回答

・　6000万円のはずがなぜ3000万円になったのか。

⇒府市各々で1500万円、それに文化庁の補助金を最大3000万円をもらい計6000万円の事業として計画したが、文化庁補助金を申請したがこの事業が採択されなかった。原因としては、この事業スキームが各々の事業を積み上げて総合的に事業を実施するものであり、補助金申請時には中身が決まってことが要因。何度も国に足を運んで説明したが、採択されなかった。

・　来年はどうするのか。

⇒来年も申請予定。不採択後に国に足を運んで説明していたら、そういう事業であれば・・というように変化してきており採択の可能性がある。ただし、H28補助金の申請時期がH27.10月に早まっており、まさに事業実施中であり、H27の事業実施の結果を踏まえた申請ができないので、課題として残っている。

・　芸術文化魅力育成プロジェクトはどのような状態が実現すれば成果があるということになるのか。我々はどういうことを期待すればいいのか。

・　２つの側面がある。１つは、一つ一つのショーが観客のハートをつかめるかどうか。もう１つは、ジャンルの異なる事業と人材を交流し文化基盤を広げられるかどうか。

・　事業ごとに広報しても効果が小さい。広報予算をつけることができないのか。

⇒事業予算3000万円のうち事業実施費用が2000万円、会場代が500万円であり、広報予算があまり確保できていない。水都やカンヴァス事業と一体的に広報誌を作れないか調整をしているが、ハードルが高い。

・　行政が広報すると、総花的になってしまう。プロモーションの予算をとり、イニシアティブをとる組織が必要。府市でやるものでそういうことはできないのか。

⇒おっしゃるとおり行政が広報をすれば総花的になってしまう。テーマ、メッセージをもたせる等が必要であるのでプロにお願いしたいと思っている。水都やカンヴァスとともに一体的なガイドブックを作りたいと考えており調整中

・　シンボルイヤーでもあり、在阪のメディアに依頼する等できないのか。せめてアドバイスをもらうとか。事業予算がついていなくてもできることはある。

⇒大阪マラソンは難しいが、水都あたりとの連携の可能性があり、使えるもの扱っていく。事業者自身にも動いてもらう。

・　これまでのやり方はどうしても時間切れでばたばたしている。

・　同時期に建築のフェスティバルもある。一体的に広報ができれば。

・　中之島文楽はキョードー大阪にプロモーションをお願いしていた。ちちんぷいぷいで桂南光さんにも告知してもらった。プロモーションをやっている人にお願いされれば、私も力になることはできると思う。

・　文楽は事業主体がはっきりしていたので、動きがよかったのか。

・　文楽については、文化ものを支援するのは当たり前じゃないかという気運があった。

⇒がんばりますので、よろしくお願いしたい。

・　さきほど事務局が「大阪マラソンは別」といったが、一緒であると思わないといけない。

⇒さきほどの意味合いはガイドブックは別ということ。当然事業連携は考えていきたい。まとまってＰＲしないといけない。

・　四天王寺ワッソなどもある。

・　具体的な事業が決まるまで広報をまっていては遅い。特に印刷物は締め切りもあるので、１０月に実施であれば、そろそろ広報もしないといけない。

・　プロモーションをかけれるには、素材と早く（スピード）が必要、スピードをもってプロにお願いしてほしい。

・　昨年は悪天候だった。天気が心配である。

佐藤委員

○　資料３（アーツマネージャー育成講座＠ツムテンカク概要）の説明

・　アーツマネージャーとは、大阪アーツカウンシルの依頼で文化事業の状況などの調査を行い、アーツカウンシルにレポートの形で報告する。レポートはアーツカウンシルが文化事業などを評価する参考として活用する。

・　委嘱を受けているが１レポート当たり6,100円。

・　アーツマネージャーの事業、方法論が固まっていない。現在は補助金の主旨を踏まえた事業の評価をしてもらっている。

・　マネージャーの確保が困難⇒育成講座の実施

・　アーツマネージャー育成講座＠ツムテンカクは定員１０名（スペースの関係）

・　ツムテンカクを素材に、調査をしながら「調査・評価とは何か」を学ぶ。PDCAサイクルのCのところを育てる。

・　この講座のために、山下委員が事業調査シートを作成してくださった。

・　事業は概ね好評。今後、９月の大阪クラッシック、１０月のカンヴァス、１１月のU40で実施予定

（出席委員からの主な意見）⇒は事務局の回答

・　講座の目的・自分たちの事業に置き換えてみている受講生が多かった。「人の振り見て我が振り直せ」でやれているつもりでもやれていないことがわかったようだ。

・　裏テーマとして、レーダーの評価軸がどうなるのかを見てみたかった。もちろん満点の事業はないが、バランスがとれているのかどうか、全体像を見てみたかった。

・　今の府市の助成事業は、芸術性は高いが、市民参加が少ないと考えられる等共通の弱点が出てくるはず。たとえば広報。事業をやりながら広報するのはしんどい。SNSをつかってうまくしている事業もあるが、目を見張る広報は少ない。そういうマネージャー的な人材が少ない。

・　ツムテンカクも３年目であるが、現場を回す若い人が少ない。立ち上げた人がそのままがんばっている。

・　大阪の方向をどうするのか。都市魅力に力を入れるのか。創造性をもたせるのか。

・　大阪には何人ぐらいアーツマネージャーたる人がおればいいのか。

・　U40ミーティングで集まった30人が一つの目安

・　顔を見て、府市でいえばこの人というのが理想

・　人事考課も同じであるが、評価というのは本当に難しい。基準をどこにもってくるのかが重要

・　基準については、議論すればいいと考えている。

・　また基準を金科玉条としてもいけない。分野別でも基準が違ってくる。

・　ただ、基準があれば客観性をもって人を育てられる。点数性にしているが形、バランスが大切。

・　分野が違う事業についても、見に行っていただく。関心のないところには目が行かない。このシートを使用することで、何が見えていないのかがわかる。

・　専門性が低くても評価できる人が大切。助成金事業では演劇の応募が多いが、観る人が少ない。音楽・芸術の方面が見る人が多い。

・　人事評価の同様のシートがあるので、よければ参考送付する。

・　質的なものを数字にするのは難しい。すばらしい。

・　PDCAサイクルでは、CとAが難しい。

・　ところで、11人の事業評価シートの形にはばらつきがあったか。

・　点数はからいつけ方や甘いつけ方などばらつきがあった。しかし、値に差はあるものの、共通する部分があった。

・　芸術性のところはばらばらであったが、広報や観客に対する事業設計は、ある程度評価がされていた。

・　アーツカウンシルは評価をオープンにする事業

・　委員の好みで評価しているのではなく、どういう事業をもとめているのか基準を示すことが重要。

・　この評価シートはすばらしい。よく作ってくださった。

・　事業評価シートには３種類の使い方があると考える。

①まず、研修用。OJTでも使える。

②U40の個々の事業について、これにのっとって企画書を出してもらって、実際に評価すればよい。

③文振会議で、大阪として何を目指していくか議論に使えば見えてくるのではないか。

・　事業レベルの項目と政策レベルの項目が入っている。１回やってみてまた修正すればよい。

・　２～３年はやってほしい。

・　事業が消えてしまわないように事務局しっかり続けほしい。よろしくお願いする。

・　この評価シートは大きな一歩である。

・　願わくば、文化振興計画の３つの方向性（A文化創造の基盤づくりB都市魅力の向上C人と地域のエンパワーメント）に沿った事業かどうかの観点があれば望ましい。

・　芸術性や計画性、継続性、広報等は必須科目。それに＋文化振興計画のA,B,Cの方向性に資するポイントを評価する。

・　アーツマネージャーには何を身につけさせるのか客観的にすることが必要。その後プロデューサーにつなげていく。

* 今後、いくつかのバリエーションを作ってほしい。
* 行政内部にも民間にも、プロでなくても評価できる人が出てきてほしい。

・　ただし、１レポート6100円というのもなんとかしてほしい。

・　この事業評価シートはツムテンカク用。

・　都市魅力アップが助成金の目的であったため入っている。今後鑑賞事業等の評価もやっていきたい。

・　アーツマネージャーは事業を動かす人。事業が始まってからと事業実施の間をつなぐ人である。

・　今年度次期計画を策定する。次期計画の柱立てに合わせていってほしい。

・　これは助成金事業用で、府市主催事業は計画の柱立てでやりたい。

・　アーツカウンシルについては、シンクタンク的な役割だと思うが、現状では厳しい。参考資料を説明

・　参考資料の地域アーツカウンシルで吉本さんは「アーツカウンシルは、芸術文化に対する助成を機軸に、政府・行政組織と一定の距離を保ちながら、文化政策の執行を担う専門機関」としている。評価は課題を見つけて、どう解決していくかを検討する。

・　沖縄県などは寄り添い型である。大阪は、助成金事業の審査をしているため、採択事業とはつきあいにくい、寄り添えない。

・　P6に「大阪府市の文化事業の評価・改善提案とその一部の審査を行う専門化の部会をアーツカウンシルと称している点は変則的な感をぬぐえない。ただ、限られた陣容の中で、大阪ならではのアーツカウンシルを目指そうとする姿勢には、他にはない可能性が感じられる。」と記載。

・PDCAのAの実施が難しいが本来はここをやらないといけない。

・　そもそもアーツカウンシルはまだ完成していない。

・　本来は評価・調査・企画が３：２：４ぐらいかと思うが、大変よくがんばってもらっている。

・　この環境の中でアーツカウンシルに至らなくて当たり前。知事・市長がアーツカウンシルに託したいと思ってもらわなければならない。P6の変則的というのはやむを得ずこの形でやっているだけのこと。これが最終形ではない。府市に思い切っていただきたい。アーツカウンシルが都市魅力の共通インフラであり、戦略的ツールとなっていない。このためには予算要求していかないといけない。

⇒佐藤委員には、週１回府市にお越しいただき、大阪府立江之子島文化芸術創造センターenocoにもいっていただいており、感謝。現実的には府市事務局が手足となっていない。

・　この間、行政と距離を置いて、府市の事業をみていただき、かなり改善することができている。

・　しかしながら、アーツカウンシルの機能を高める方策をきちんと考えていく必要があるのも事実。

・　次期計画の中で、拠点を置いて活動するにはどうするのか、財源確保も含めて厳しい環境の中でどうすればいいのかも、しっかり検討していかないといけない。

・　短期的には、来年度にむけて、佐藤さんが動きやすいように工夫をしていく必要がある。部会等の準備にかなりの業務量もあるので、アドバイザー業務ではなく、業務委託をして柔軟的に動いてもらえるようにすることなどを検討したい。

・　府市ではなく、エノコに活動拠点をおくことも含め、部会の意見ももらって予算要求につなげていきたい。

・　まずプランA、プランBと具体的な案を作ってみよう。

・　東京が16億であるならば、大阪であれば10億は必要。

・　プランAが見えない。次の計画の中に絵に書いて府民市民に見てもらう必要がある。

・　事業調査は誰がするのか。企画は誰がするのか。知恵が必要。プランAを書いて議論すべき。

・　吉本さんのレポートには記載れていないが、アーツカウンシルには、政治・経済の介入を防ぐという役割がある。

・　横浜と沖縄は寄り添い型であり、与党主導。

・　東京と大阪は一定の距離を保っている。

・　部会にしておくのがいいのか、協会をつくり委託するのがいいのか議論する必要がある。

・　それより、2020オリンピック・パラリンピックで４年で20万件の文化プログラムの見込みである。単純に１行政あたり20ぐらいか。大阪府市はどうするのか。待っていては遅いのではないか。危機感を感じる。

・　大阪版アーツカウンシルも進化と発展をとげていると感じている。

・　大阪アーツカウンシルの皆様には頭が下がる。

・　改善すべき点があっても週１度では動けないので、活動母体が必要と思う。

・　２月のうめだ文楽にゲストで呼ばれたが、民間同士がタッグを組んだめずらしい事業形態であった。前にすすんでいると思う。

・　これから議論というところではありますが、時間が来たので、事務局よろしく。

事務局

・　８月で第２回目を開催したいので日程調整させてもらう。

・　会議資料のほかに３種類資料を配布。

・　カンヴァス募集チラシは、「たたかう」という挑戦的なメッセージを出している。作品もそういったメッセージを受けたものが出されており、審査中。

・　大阪府立江之子島文化芸術創造センターenocoのニュースレターを配布。初めは人が少なかったが、じわじわと人が増えてきている。

・　enocoについては、指定管理が４年目。次のことも考えていかないといけない。指定管理でよりか、拠点としていく運営方法を考えていけないといけない。

・　大阪市なにわ芸術応援募金は、ふるさと寄附金のメニューのひとつで登録１４団体のうち応援したい団体に寄附できる制度。

会長

・　８月末で委員の任期が切れる。再任されるかどうかは別。このメンバーで審議するのは８月が最後。次期計画は次のメンバーで議論。

事務局

・次回は、項目ごとに進捗状況がわかるようにしてご審議いただく予定

会長

○　閉会の宣言